

## 作業終了時の消毒

- 使用した器具、作業面を消毒液で拭いて洗剤と温水で洗浄する。
- 「衣服」や「用具」は、家庭用の「消毒用石鹼」や「洗濯用洗剤」を使用した洗濯または「オートクレーブ滅菌」で消毒が可能（所有者がいとわなければ「焼却」）。
- 狂犬病の動物を飼育および解剖を行った部屋の床等は、「1%の温湯石鹼水」や「洗浄液」もしくは「第4級アンモニア塩」で消毒が可能。
- 洗剤等の噴霧により部屋を清浄化する前には、床や壁に付着した感染動物の飛散組織等の有機物を洗剤で十分に取り除いておく。

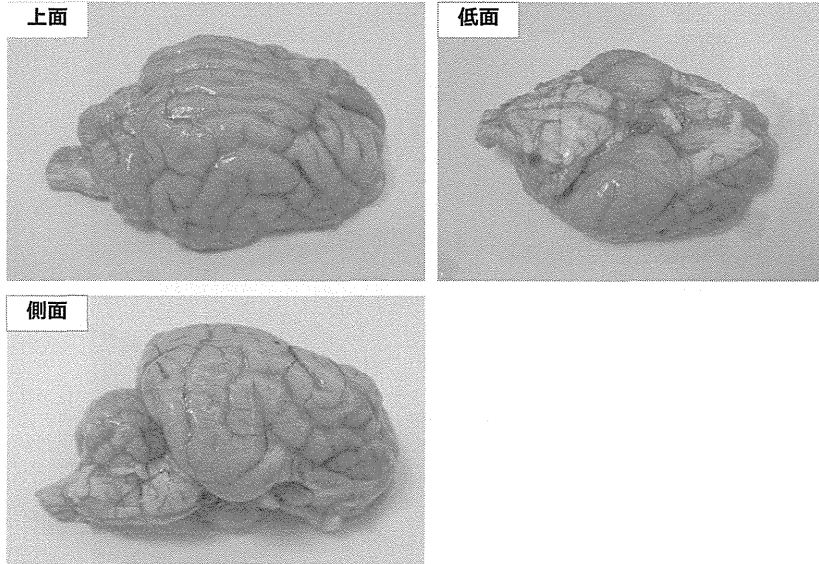
## 解剖を安全に行うためのポイント：

- (1) 作業台にベンチコート等をしきその上に紙タオルもしくは新聞紙を広げて滅菌済みの器具を配置する。
- (2) 致死処分後の動物死体や頭部の外部寄生体をクロロホルム処置等で麻酔・殺処理する。
- (3) 検体の頭部を洗剤等に浸したタオルなどで拭う。
- (4) 解剖中に流れ出た血液等は紙タオル等で適時ぬぐい取る。
- (5) 解剖中に切除した組織は全て焼却処分用のビニール袋等に回収する。
- (6) 解剖終了後の動物の残骸と汚染タオル等を焼却処分用の袋に入れて回収する  
(動物を回収したビニール袋を大型ポリバケツに入れると焼却場に移動する際に安全)。
- (7) 解剖を行った作業台と床を消毒用洗剤等で洗浄する。

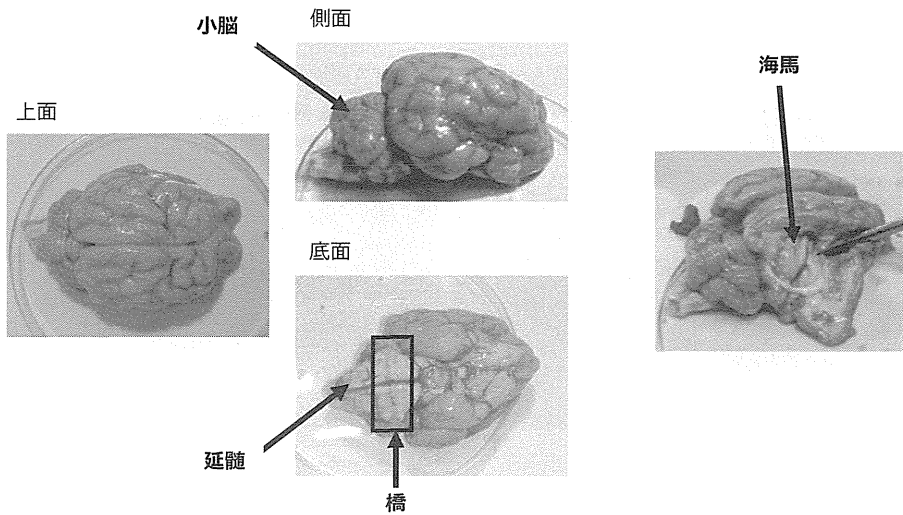
## 検査部位の切り出し

- 切り出しのための場所：安全キャビネット内での作業が望ましい。  
(解剖室に切り出しの場所を設置して行うことも可能)
- 採材部位：個別のファルコンチューブ等に保存する。
- 検体の移動：液漏れのしない二次容器に入れて行う（冷蔵、on ice等）。

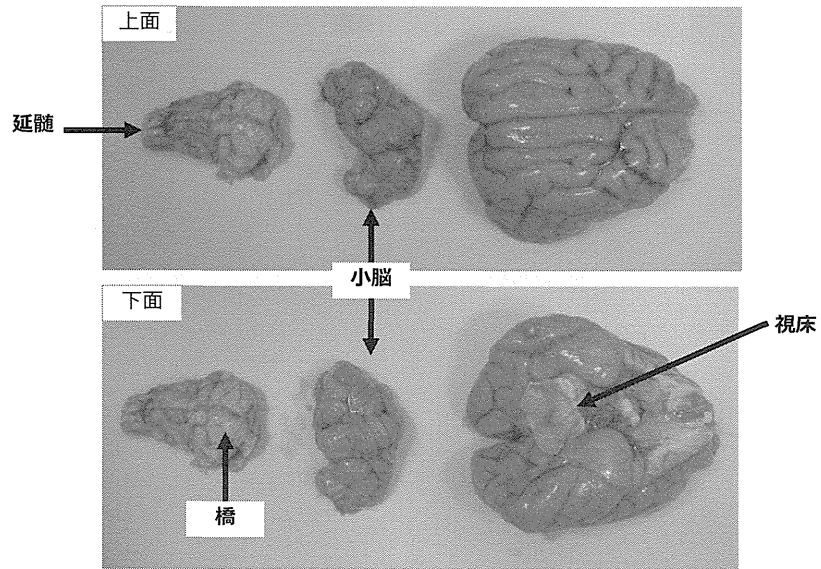
## 頭部より取り出した脳



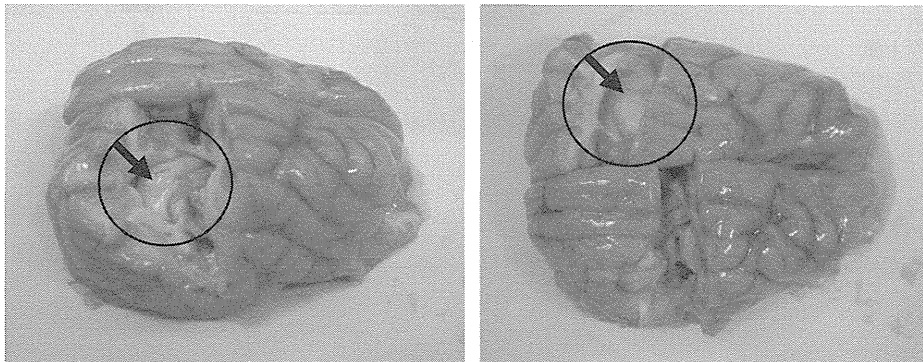
## ・ 脳幹（橋、延髄、視床）、小脳、海馬



・ 脳幹（延髄、橋）、小脳、大脳（視床）



海 馬



## 脳を取り出した

- ・ 頭部を切り離さないで行なう方法



解剖方法のDVDを参照

狂犬病検査に必要な解剖方法（安全で簡便な脳を取り出し方の1例 Ver.1）  
平成18年度厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症研究事業

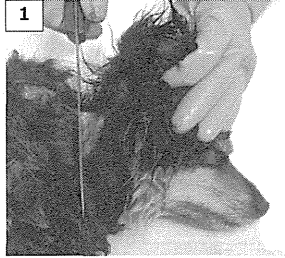
狂犬病検査に必要な解剖方法（安全で簡便な脳を取り出し方の1例 Ver.2）

平成21年度厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症研究事業  
動物由来感染症のサーベイランス手法の開発に関する研究  
（狂犬病のサーベイランス及び診断に関するワーキンググループ）

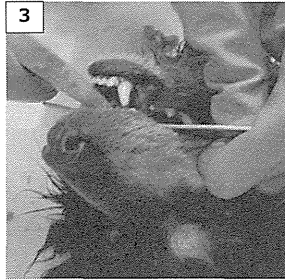
## 参考：前記以外の方法

- ・ 頭部を切り離して行う方法 （1）
- ・ 頭部を切り離さないで行う別法 （2）

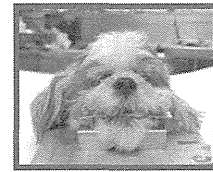
## ・ 頭部を切り離して行なう方法（1-a）



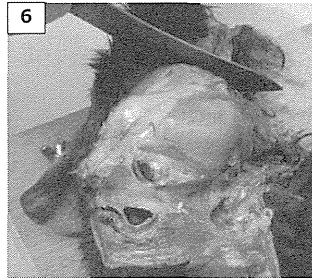
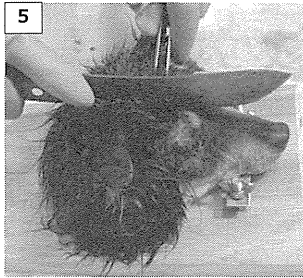
第二頸椎と第三頸椎（もしくは、第三・第四頸椎）の間で頭部を体から切り離す。



口腔に保定用のプレートを入れて保定器に頭部を固定する。



## ・ 頭部を切り離して行なう方法（1-b）



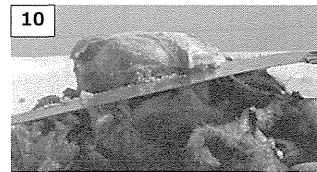
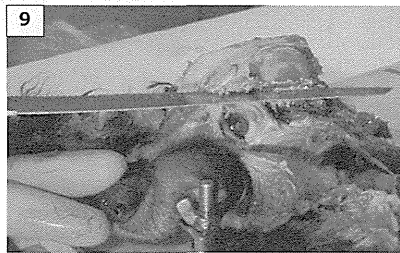
皮膚の切開と頭骨に付着している筋肉を取り除く。

## ・頭部を切り離して行なう方法（1-c）

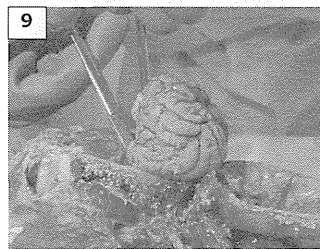


1：「のこ」の切り込みを、眼球の真上に入れる。

2：保定器に水平に頭骨を一周する。



## ・頭蓋から脳を取り出す（1-d）

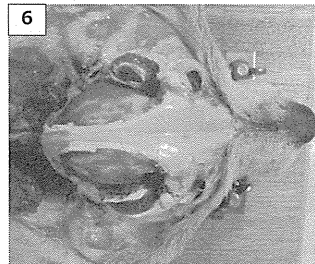
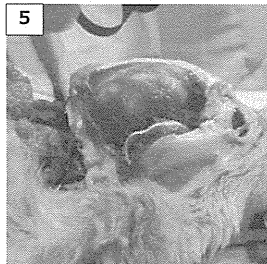
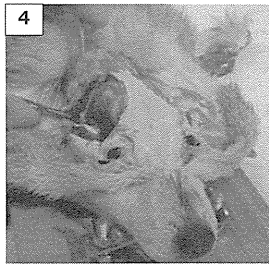
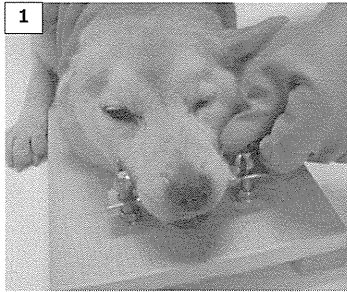


脳底部の神経を切り離す

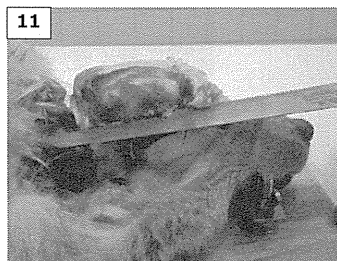
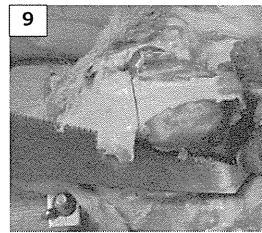
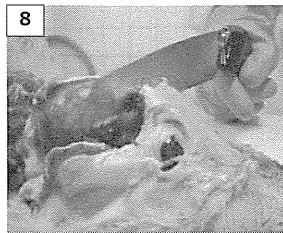
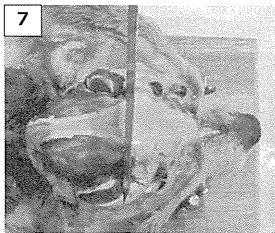


廃棄物は焼却用の袋に入れる

・ 頭部を切り離さないで行なう別法（2-a）



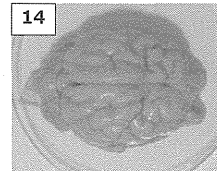
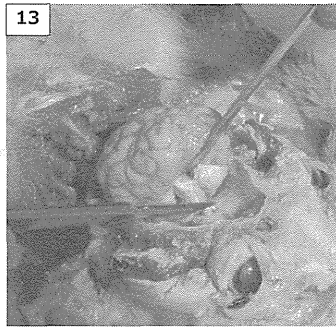
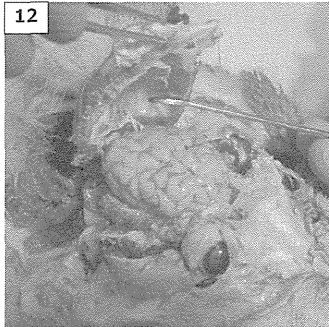
・ 頭部を切り離さないで行なう方法（2-b）



頭骨に「のこ」  
で切り込みを入  
れる



・ 頭蓋から脳を取り出す (2-c)



脳底部の神経を切り離す

# 簡易保定器

